

人の命を守り暮らしを豊かにする学問 半田工科で学べます

けんちくとデザイン

かわらばん 令和6年1月号

令和4年秋・冬号 改訂版

2024年12月からさかのぼって
80年前の半田
1944年 昭和東南海地震

東海地方に起きた巨大地震の年表

→ 1498明応地震 → 1605慶長地震 → 1707宝永地震 → 1854安政地震 → 1944昭和東南海地震 → 20××
137年間隔 107年間隔 102年間隔 147年間隔 90年間隔 ?年

37日後に三河地震

100年くらいの周期で起こると言われています。前回と同じ90年だと、**2034年?** (あと10年?)

巨大地震は連続して来る? 80年前37日で2回来た
昭和東南海地震 最大震度7 1944年12月7日
三河地震 最大震度7 1945年1月13日

建築基準法について 人の命と財産を守る最低限の基準
地震や火災から人が避難するまで建物が耐えてくれるための基準
災害後にそのまま住み続けることは想定されていません!
1981年以降の新耐震基準、なるべく2000年以降の基準がいいです
阪神淡路大震災後に基準が改正された

震度6強や7が来るとどうなる? 気象庁のHPより

建っている場所が重要 埋め立て地は建物が丈夫でも厳しい

6強



【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



耐震性が高い



耐震性が低い

7



耐震性が高い

耐震性が低い

【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



明治の半田 古地図より

現在の半田

液状化の被害 東日本大震災

昔、海だったところは津波と液状化で倒壊の可能性があります
高台でも埋め立て地は地滑りで倒壊の可能性があります

建物を地震に強くしたり 壊れた建物を直すのは 君たちです!



建築デザイン科は建築士や現場監督や大工さんに近づけますが
遠う道に進んでも大丈夫! 生涯において生かせる学問です